

第57回SEITOKU夏期保育大学

開催日時：令和6年7月27日（土）10時30分～16時

ねらい 「保育の聖徳®」の学びを現場に活かす

本学は、「保育の聖徳®」として、今まで多くの幼稚園教諭・保育士を輩出してきました。伝統的な学びの特徴をいかして、毎年夏に開催している研修会が「SEITOKU夏期保育大学」です。保育関係者相互の連携を図りながら、「保育学」に関する研究をより一層高め、日本における保育の在り方を前進させることを目的としています。

今年は、「子どもたちの豊かな育ちのために！」を総合テーマに掲げ、274名の方にご参加いただきました。

全体会 「子どもたちと笑い合えるあそびうたいっぱい」

【講師】あそび歌作家 鈴木 翼さん

楽しいトークに加え、歌やダンス、絵本の読み聞かせ、たくさんのお手遊び、パネルシアターなど、現場でいかせるあそびのネタをたくさん披露していただきました。それに加えて、どのようにしたら子どもが喜ぶのかなど、エピソードも交えながらお話しいただき、参加者は、一緒に踊ったり、歌ったりしながら盛り上がり、笑顔いっぱいの90分となりました。



分科会 10の分科会から興味のあるテーマを選び、それぞれの学びを深めました。

分科会は、講義の内容を聞くだけでなく、自分たちで実際に体験・経験ができる実践型と参加型の内容を設けました。音楽表現あそび、運動あそび、造形表現あそび、折り紙あそび、食育、心理学、多文化保育、インクルーシブ保育、幼保小の架け橋、子どもの色覚障害の10分科会の中から好きな分科会をご受講いただきました。150分の時間の中で、音を楽しんだり、大量の土粘土にふれたり、グループワークを通して交流を深めるなど、日々成長する子どもたちをより理解するために、講義や体験に熱心に取り組まれる姿が印象的でした。分科会ごとにそれぞれ充実した研修になりました。



参加者の声

顧客満足度アンケートご回答者の96%より「大変満足・満足」という評価をいただきました。下記は、参加者から寄せられたコメントです。

- 子どもとやり取りしながら楽しむ手遊びや、パネルシアターを楽しく学べました。
- 幼稚園でも活用してみたいことがたくさん知れたので良かったです。
- グループワークを通して、参加者同士が交流することができ、情報交換に繋がりました。
- 子どもの気持ちに寄り添うということは、子どもの気持ちを言葉にしてあげることだとあらためて感じました。

成果と課題

ご参加いただいた皆様、講義や体験を楽しみながらも真剣に取り組んでいる姿や、アンケートの結果で高い満足度を得たことを通し、成果と手応えを感じています。

次回の課題として、児童・保育関係の現職の方々により多くご参加いただける日取りの設定があると考えています。保育の現場の先生方に調査をとり、来年は、より多くの方にご参加いただけるよう考えるとともに、魅力ある企画を実現できるよう、教職員一同より一層努めてまいります。